

アオバトたちの だいぼうけん

～湘南

アオバトものがたり～

脚本：生命の星
地球博物館
アオバトチーム

絵：かとう えみ
(いふくまるデザイン)



みなさん

「アオバト」という鳥を知っていますか？

きみどり色の羽をもつ

きれいなハトのなかまです

脚本：生命の星・
地球博物館
アオバトチーム
絵：かとう えみ
(いくまるデザイン)



アオバトたちの だいぼうけん

～湘南
アオバトものがたり～

キジバト

カワラバト
(ドバト)

脚本：生命の星・
地球博物館
アオバトチーム
絵：かとう えみ
(いくまるデザイン)

家のまわりや公園で見かけるのはキジバト
街のなかや駅で見かけるのはカワラバト
このハトたちはよく見かけますね

アオバトたちの だいぼうけん

～湘南
アオバトものがたり～

キジバト

カワラバト
(ドバト)

アオバト

脚本：生命の星・
地球博物館
アオバトチーム
絵：かとう えみ
(いくまるデザイン)

アオバトは森でくらしているの

あまり見たことがないかもしれせんね

アオバトたちの だいぼうけん

～湘南
アオバトものがたり～

脚本：生命の星・
地球博物館
アオバトチーム
絵：かとう えみ
(いくまるデザイン)



このアオバトはとても
ふしぎなくらしをしています
どのようなくらしなのでしょう

アオバトたちの
だいぼうけん

～湘南
アオバトものがたり～

春になりました。ここはたんざわの森の中
おや？

木のえだにアオバトのふうふがとまっています
ハトヤとテルコです



「テルコちゃん、明日は海に行こう」

「そうね ハトヤくん」

朝いちばんで行きましょぅ」

海？ 海に何をしにいくのでしょぅ？



次の日、ハトヤとテルコは
朝早く、大いその海へやってきました

他のアオバトたちも、たくさんきています



「ハトヤくん、早くお水を飲みましょう」

「テルコちゃん、波が高いから気をつけて」
2羽は、岩の上にたまった海の水を
ごくごくと飲みました



「たくさん飲んだなあ。今日も元気いっぱいだ」

「さあ、山に帰って

あまいサクラランボを食べましょう」

「そうだね、早くすもかんせいさせなくちゃ」



アオバトたちは海の水を飲むために
たんざわの森から大いその海岸まで
とんでくるのです

山から海まで

わたしたちが歩くと4時間以上かかります



もうすぐ夏

ハトヤとテルコのすではたまごがうまれ

やがてたまごからは元気なヒナ
ぴじよまるがたんじょうしました



「いつてきまーす

ハトヤくん、ぴじよまるをおねがいね」

「まかせておいて。いつてらっしやい」

朝早く、テルコは海へ出かけていきました



ハトやはすでおるすばん

テルコが海の水を飲んで帰ってくるまで
ぴじよまるをしっかりとだいて守るのです



夕方、こんどはハトヤが出発です

「いつてくるよ、テル「ちゃん」

「あら、また夕方から出かけるのね」



「朝はなるべく早く起きてね
そして海の水を飲んだらすぐに帰ってきてね」



お父さんは、夕方山を出発して
海の近くの安全な森のなかでねむります
そして朝早く海の水を飲むのです



お父さんがもどると
今度はお母さんが海へ出発するのです



アオバトのお父さんとお母さんは
このように、交代でヒナを守ります

ぴじよまるはすくすくそだち
お父さんやお母さんといっしょに
とべるようになりました

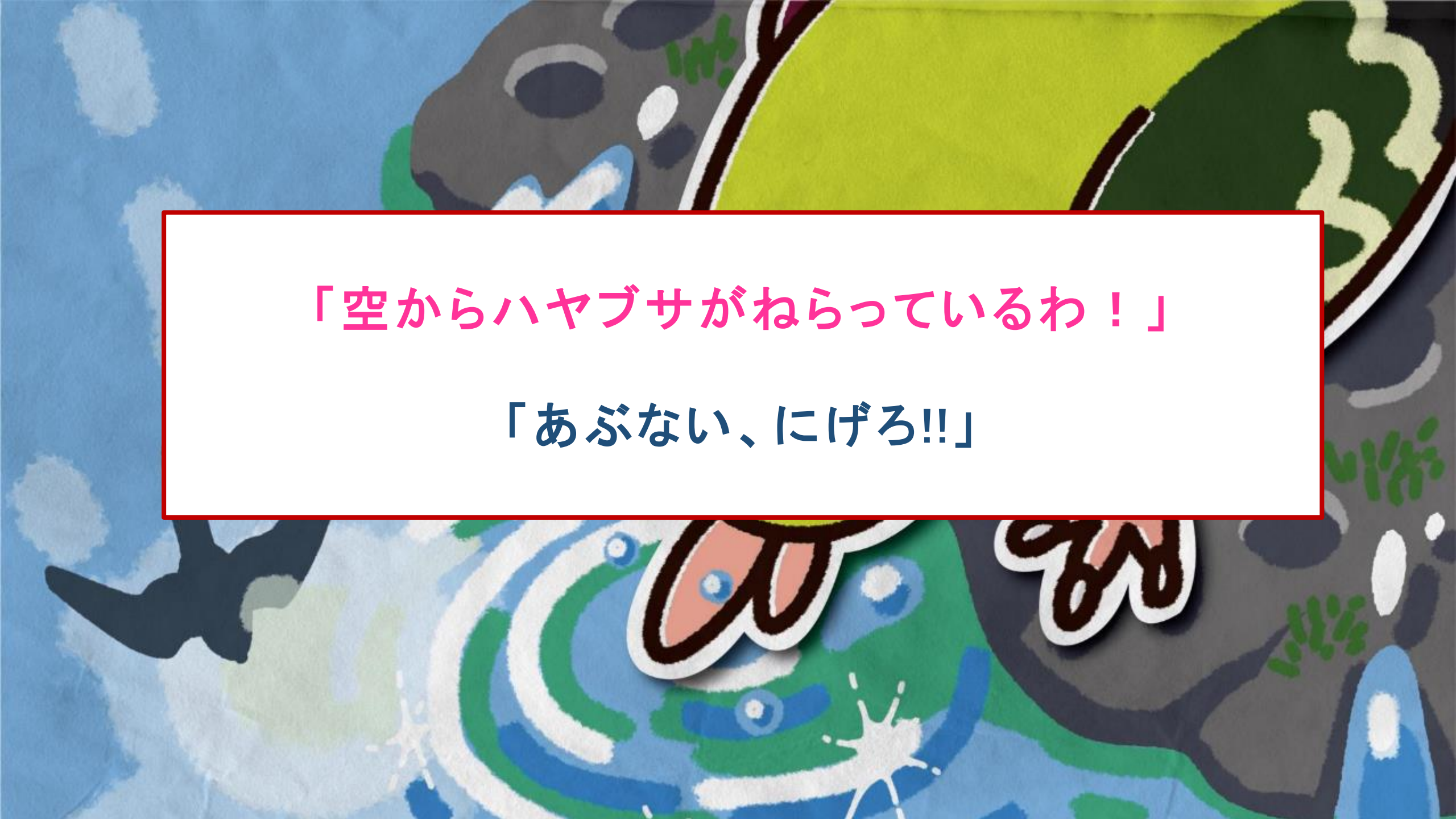


今日は、はじめて
家族みんなで海へやってきました

ぴじよまるは
はじめての海におおよろこび

さっそく、海の水を飲み始めました





「空からハヤブサがねらっているわ！」

「あぶない、にげろ!!」

「かわいいよ たすけて！」

ぴじよまるはあと少しのところで
ハヤブサからにげることができました



「海の水はおいしいけれど
きけんもいっぱいなのよ」

「波にさらわれて
おぼれてしまう子もいるんだよ」



「うん。これから気をつけるよ

でも、海のお水おいしかった！

明日もこようね」



こうして、ぴじよまるたちは
海の水を飲み

山ではサクランボやブドウなど
あまくてやわらかい実を食べてすごしました



夏がすぎ、秋がすぎ

ぴじよまるは

お父さんと見分けがつかないくらい
大きくなりました



山にはもうすぐ寒い冬がやってきます

アオバトたちが大すきな
やわらかい木の実もなくなってしまいます



ぴじよまるたちは
どうやって冬をすごすのでしょうか



「おかあさん、この木の实、おいしいね」

「そうね。ここにはサクラランボはないけれど
ドングリがたくさんなる、いい森よ」



「のどがかわいただろう
この水を飲んで」「らん」
「あれ？ このお水はしおからくない」



「ふしぎだな。夏はあんなに
海の水が飲みたかったのに…
もう今は、ほしくないよ」



アオバトたちは、寒い山から
あたたかい南の森にひっこしてきました

ここでドングリを食べて、冬をすごすのです

もう、海にはいきません



ぴじよまるは夏の海を思い出しました

「**そういえば、海にいたあの人たち、元気かな**」

「わたしたちの」とをずっと見ていたね」

「**そうね、きっと、また春に会えるわよ**」



次の春も、アオバトたちは
また、大いその海へやってきました



「今年もやってきたね。おかえりー」

海岸にはアオバトたちを
よろこんでむかえている人たちがいます



みなさん、気がついていましたか？

この人たち、お話のはじまりからずっと
アオバトを見まもっていましたよね



ふしぎなアオバトのことを知りたくて
神奈川県の大いその海岸で
ずっとアオバトたちをかんさつしている
「こまたん」の人たちです



今回、しょうかいをしたアオバトのくらしは
その人たちのかんさつのおかげで分かりました



このふしぎなくらしをしているアオバトと
アオバトがくらす森や海を
ずっと見守っていききたいですね



アオバトたちの
だいぼうけん

～湘南
アオバトものがたり～

おしまい！

これから、もう少しくわしくアオバトのくらしを説明するよ

アオバト *Treron sieboldii*

- ◆日本、台湾、中国南東部からベトナムにかけて生息しているハトのなかまです。
- ◆日本には亜種アオバトが生息し、国後島と北海道、本州、四国、九州で繁殖が確認されています。
- ◆冬になると、北の地方のものは暖かい地方へ移動します。
- ◆神奈川県では、一年を通してみることができます。



撮影：重永明生

(左：メス、右：オス)

海水を飲むアオバト

- ◆アオバトの海水を飲む行動（海水吸飲）は、北海道から九州まで、日本各地で観察されています。
- ◆海水だけではなく、山の中で温泉水を飲むことも確認されています。
- ◆海水（温泉水）吸飲は春から秋にかけて観察されていますが、冬の間は記録はありません。



撮影：重永明生

海水を飲むアオバト

- ◆なぜ海水や温泉水を飲むのか、くわしいことは分かっていません。
- ◆食べ物と関係している可能性が高いと考えられていますが、繁殖と関係しているという説もあります。



撮影：重永明生

ちょっと詳しく解説

海水を飲むアオバト

- ◆神奈川県大磯町の照ヶ崎海岸では、毎年4月下旬から5月初旬になるとアオバトが海水を飲みに飛来し始めます。
- ◆飛来は10月下旬から11月上旬まで続きます。
- ◆照ヶ崎海岸は、「大磯照ヶ崎のアオバト集団飛来地」として神奈川県の天然記念物に指定されています。



照ヶ崎海岸

海水を飲むアオバト

- ◆早い時では、日の出前から飛来が始まりますが、天気の悪い日は飛来しないこともあるようです。
- ◆数羽、数十羽の群れで、時として500羽以上もの大きな群を作るときもあります。
- ◆海が荒れると、波にのまれるアオバトも少なくありません。



撮影：重永明生

夏のアオバトのくらし

- ◆アオバトの子育ての時期は春から夏にかけてです
- ◆繁殖はつがいごとに分かれて行います。
- ◆神奈川県では、丹沢山地で繁殖が確認されています。
- ◆ふつう卵を2個うみます。
- ◆主な食べ物はサクラやクワの実などの水分を多く含む液果です。
- ◆日本各地で海水や温泉水の吸飲が報告されています。

冬のアオバトのくらし

- ◆秋から冬にかけて、平地から低い山の林などで見かけます。
- ◆平地の公園でも見かけることがあります。
- ◆主な食べ物はシイやカシの実（ドングリ）です。
- ◆池や川の水（淡水）の吸飲が報告されています。



アラカシの実を食べるアオバト（オス）



神奈川県立 生命の星・地球博物館

Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

この資料は、2019年度特別展「アオバトのふしぎー森のハト、海へ行くー」の展示解説及びワークショップの資料を再編集したものです。

協力：こまたん

※「こまたん」は、野鳥を中心に花や昆虫などを愛でる平塚市・大磯町をフィールドに持つバードウォッチングのグループです。

イラスト：加藤 恵美（ふくまるデザイン）

写真：重永 明生

脚本：県立生命の星・地球博物館アオバトチーム

※無断転載・複製を禁じます。